

グラフィック界の次世代を担う若手を発掘する

第21回グラフィック「1_WALL」展

2019年8月27日(火)～9月28日(土)

11:00a.m.～7:00p.m. 日曜・祝日休館 入場無料

公開最終審査会

2019年9月3日(火)6:00p.m.～9:00p.m.

※予約制。8月2日(金)から受付開始。詳細はWEBをご確認ください。
(当日5:30～6:00p.m.は審査のため、ギャラリーにお入りいただけません。)

ガーディアン・ガーデンでは、個展開催の権利をかけた公募展、第21回グラフィック「1_WALL」展を開催します。ポートフォリオ審査による一次審査と、一対一で審査員と対話をする二次審査を通過したファイナリスト6名が、一人一壁面を使って作品を発表するグループ展です。会期中の9月3日(火)には、一般見学者にも公開される最終審査会を開催します。ファイナリストによるプレゼンテーションの後、審査員による議論を経て、グランプリが決定します。グランプリ受賞者には、1年後の個展開催の権利と、個展制作費30万円が贈られます。

想像を超えたスケールのモニュメントをグラフィックで表現する加瀬透。アクリル絵具、スプレー、ペンを用いてドローイングを描く近藤大輔。空想の世界をアクリルガッシュで描く近藤麻矢。文章、ドローイング、立体を組み合わせてインスタレーションを展開する田中義樹。キューブ型の絵を並べ、異なる時間の流れを表現する猛暑。とどめたい一瞬の景色を木材や写真で結晶化することを試みるyukomayumi。今回の「1_WALL」展は、以上6名によるグループ展示です。



グラフィック部門審査員

五十音順・敬称略



上西祐理 Yuri Uenishi | アートディレクター / グラフィックデザイナー

1987年生まれ。東京都出身。2010年多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業、同年電通入社。現在第5CRP局勤務。今までの仕事に、世界卓球2015 ポスター / テレビ東京、Laforet GRAN BAZAR 2019 SUMMER / Laforet など。趣味は旅と雪山登山。旅は40カ国達成。



菊地敦己 Atsuki Kikuchi | グラフィックデザイナー

1974年生まれ。武蔵野美術大学彫刻科中退。2000年ブルーマーク設立、2011年より個人事務所。ブランド計画、ロゴデザイン、サイン計画、エディトリアルデザインなどを手掛ける。とくに美術、ファッション、建築に関わる仕事が多い。また、「BOOK PEAK」を主宰し、アートブックの企画・出版を行う。



都築潤 Jun Tsuzuki | イラストレーター

1962年東京生まれ。武蔵野美術大学卒業。1980年代から2000年代までにグラフィック系コンペや広告賞で多数受賞。2010年「ニューエイドス」、2013年「都築潤×中ザワヒデキ」を展示開催。2015年「ニューエイドス以降／検証1980-2000」開講。『日本イラストレーション史』監修執筆。NHK高校講座「美術1」監修出演。 jti.ne.jp



長崎訓子 Kuniko Nagasaki | イラストレーター

1970年東京生まれ。多摩美術大学染織デザイン科卒業後、イラストレーターとして書籍の装画や挿絵、映画に関するエッセイ、漫画の執筆など多方面で活動中。装画に『武士道シックスティーン』『徳男』など。女子美術大学ヴィジュアルデザイン専攻准教授。



保坂健二郎 Kenjiro Hosaka | 東京国立近代美術館主任研究員

1976年生まれ。企画した主な展覧会に、「フランス・ペーコン展」(2013)、「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」(2016)、「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」(2017)など。『すばる』『疾駆』等に連載を持つ他、JAGDA年鑑(2014年)や『gggBooks 95 服部一成』に論考を寄稿。
Photo by Keizo Kioku

「1_WALL」審査の流れ

一次審査と二次審査を通過した6名による最終プレゼン。グランプリは誰の手に？



一次審査(ポートフォリオ審査)

ポートフォリオによる審査で30名を選出。



二次審査(ポートフォリオレビュー)

ポートフォリオを介して審査員と一対一で対話。6名を選出。



「1_WALL」展

二次審査を通過した6名によるグループ展。



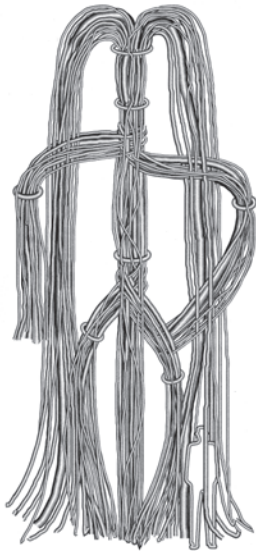
公開最終審査会

「1_WALL」展会期中に、グランプリを決定する最終審査会を公開で開催。



グランプリ受賞者個展

1年の制作期間を経て、ガーディアン・ガーデンで個展を開催。



加瀬透 Toru Kase
1987年生まれ。桑沢デザイン研究所デザイン専攻科卒業。
「モノメント・マン」把握できないことは、怖いという感情と共に私の好奇心を掻き立てます。それらの感情は深い穴を覗きこむようで、人の想像力が持つ奥行きを私に示してくれるように思えます。



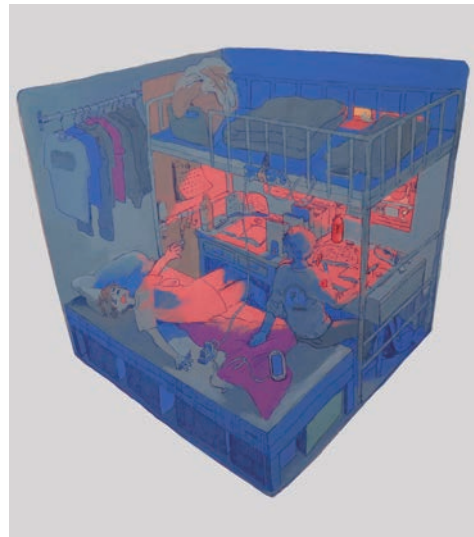
田中義樹 Yoshiki Tanaka
1995年生まれ。武蔵野美術大学彫刻学科卒業。

「気分はサイトシーン」香港旅行に行きました。北京ダックが食べたくて。我タクシーで三千里。x+eでデモクラC。香港旅行を作品に作ってみたはEものの。我未だに旅の途中。I♡1壁我愛你



近藤大輔 Daisuke Kondo
1990年生まれ。常葉大学造形学部卒業。

「ららら」音楽が好き。描くことは生活。人との会話では温度のある言葉を交わしたら幸せ。意図や狙いに溢れたこの街で誰が足を止めるのか。瞬間心に刺さるか刺さらないか、それだけ。



猛暑 Moushu
1994年生まれ。京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業。
「その日々を思い浮かべて」暮らしの中には、様々な時間が存在し、その速度や過ごし方は、人によって異なる。それらひとつひとつを描き、積み重ねていくことで、少しずつ世界を構築し、拡張していく。



近藤麻矢 Maya Kondo
1992年生まれ。
神戸芸術工科大学ビジュアルデザイン学科イラストレーションコース卒業。

「地平線に行くようなものだ」空想の世界を描く絵と言葉。言葉は絵と現実の距離を通じ制作し、発見と混乱を呼ぶように。目では空想の世界の事象・生き物を楽しみ、恐怖のない感情に浸れることを願う。



yukomayumi Yuko Mayumi
1992年生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース卒業。

「アーバンオアシス」とどめておきたい一瞬をカメラに収めるように、景色を結晶化したいと思った。見つけた美を飾る、人工鉱石。